

4

両 生 類

オオサンショウウオ

Andrias japonicus

サンショウウオ目オオサンショウウオ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

I 類

環 庁カテゴリ

絶滅危

選 定 理 由

県内での記録そのものが非常に少なく、特殊な生息環境に依存している。国の特別天然記念物。

形 態

世界最大の両生類の一つで、全長は普通 750-950mm 程度であるが、ときに 1500mm に達する個体もいる。全身が扁平で、特に頭部と口は大きく、四肢は短い。背面は黄ないし赤褐色で不規則な黒褐色の斑紋があるが、個体変異が大きい。体側には皮膚の襞がある。幼生は孵化後約 1 年は黒褐色で、変態までの 4-5 年間は外鰓を備えている。卵は黄白色、大型で、寒天質に包まれており、数珠状に繋がっている。

近似種との区別

成体は大型であるため他のサンショウウオと見誤られることはない。小さな幼生は、体色が一律に黒褐色であることで、他のサンショウウオ類の幼生と区別される。

分布の概要

岐阜県以西の本州・四国・九州の一部に分布する。日本固有種。

県内の生息状況

県内では、これまでに吉野川の支流や園瀬川、海部川などで確認されているが、他府県に比べて生息密度は低く、産卵場所は確認されていない。分布記録のある市町村は、徳島市、板野郡板野町、土成町、麻植郡鴨島町、海部郡海部町、海南町、牟岐町、那賀郡木頭村、美馬郡半田町、名東郡佐那河内村、三好郡池田町。

生態的特性

山地の河川に生息し、昼間は岩の下や川岸の横穴、滝壺深くに潜っており、夜間に活発に行動する。繁殖期は 8 月下旬から 9 月中旬で、この時期に雄は岸边にある深い横穴を巣穴として占有する。雌は雄の巣穴に入り込んで 400-500 個の卵を産卵する。雄はしばらくの間巣穴に残って、卵を外敵や酸欠から守るといわれている。卵は 50-60 日で孵化し、約 3-5 年で変態する。完全な動物食で、サワガニや魚類、両生類などを捕食する。

生存に対する 脅威・保護対策

生息地である河川の改修やダム建設などが最大の脅威で、堰堤やダムが繁殖のための移動の障壁となっており、遺伝的交流の分断を招いている。本種は、河川の上下流を移動し、岸边の深い横穴に産卵するため、流路や横穴を確保しておくことが重要である。また、十分な数の餌動物が生息できる環境を保全する必要がある。

参 考 文 献

阿部近一・石井愷義・友成孟宏・木内和美、1989. 徳島県における哺乳類、両生類および爬虫類の生息状況、徳島県立博物館開設準備調査報告 (4): 1-55.
比婆科学教育振興会 (編)、1996. 広島県の両生・爬虫類、中国新聞社、167p.
松井正文、2000. オオサンショウウオ、環境庁 (編) 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック (爬虫類・両生類)、p. 101. 自然環境研究センター、
曾川和郎、1966. 徳島県産サンショウウオについて、徳島県高等学校理科学会誌 (7): 7-12
曾川和郎、1979. 徳島県の両生・は虫類の概要、第 2 回自然環境保全基礎調査 動物分布調査報告書 (両生類・は虫類) 徳島県、pp. 2-4. 環境庁、
栃本武良、1995. オオサンショウウオ、日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料 (II)、pp. 422-428. 日本水産資源保護協会、
栃本武良、1996. オオサンショウウオ、千石正一・疋田努・松井正文・仲谷一宏 (編) 日本動物大百科、5 両生類・爬虫類・軟骨魚類、pp. 9-10. 平凡社、

カスミサンショウウオ

Hynobius nebulosus

サンショウウオ目サンショウウオ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

Ⅱ類

環境カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

県内での分布が狭い範囲に限られ、個々の産地でも生息数は少ない。また、生息環境が急激に悪化しているため、個体数が著しく減少している。

形 態

阿南市産の全長は雄で 86.3-111.7mm、雌で 109.3mm、頭胴長は雄で 48.4-63.7mm、雌で 61.8mm 程度。背面は緑褐色から褐色で、腹面は淡色。尾の上下縁に黄色い条線がある。肋条は 13 本。鋤骨歯列は V 字形。幼生の体色は黄褐色で、褐色の斑点が散在する。卵囊の形状はコイル状だが、十分に吸水するとバナナ状になる。

近似種との区別

県内産の他のサンショウウオとは、尾の上下縁に黄色い条線をもつことが多く、背面や体側に顕著な斑紋をもたないことなどで区別される。

分布の概要

本州西南部（岐阜県以西）、四国、九州に分布する。日本固有種。

県内の生息状況

県内では沿岸部や吉野川沿いの丘陵地から低山地に生息する。また、鳴門市の島田島、阿南市の伊島、牟岐町の出羽島などの離島にも分布する。これまでに知られている生息地の多くは、標高 200m 以下である。分布記録のある市町村は、徳島市、阿南市、鳴門市、阿波郡阿波町、市場町、板野郡上板町、土成町、麻植郡美郷村、山川町、海部郡牟岐町、美馬郡脇町。

生態的特性

主に丘陵地の林床や草地などに生息し、産卵期になると湧水のある水田、湿地、沢の溜まりなどに現れる。阿南市や鳴門市では丘陵地の水田や付近の溝に産卵する例が多いが、徳島市の眉山のような低山地では沢の溜まりに産卵する。産卵期は概ね 1 月から 4 月の間で、卵囊を一對ずつ水中の水草や落葉、泥の中などに産みつける。一腹中の卵数は阿南市産で 50-148 個、鳴門市島田島産で 107 - 179 個。孵化した幼生は水中生活をおくったのち、5 月から 7 月に変態して上陸する。成体や幼体は、普段は落葉や倒木、石の下、土壌中等に潜んでいることが多い。完全な動物食で、幼生の間は水中の昆虫やミジンコ、イトミミズなどを、成体や幼体は陸上の昆虫、ワラジムシ、ミミズ、ナメクジなどを捕食する。

生存に対する脅威・保護対策

生息地の破壊が最大の脅威で、残存する農耕地でも、水田の果樹等への転作、圃場整備に伴う畦の減少、乾田の増加などが産卵場所の減少を招いており、農薬散布の影響も大きいと考えられる。さらに、アメリカザリガニのような捕食性の移入種の侵入が生存を圧迫している。保全の視点として、産卵や幼生の生息場所としての水環境と成体や幼体の生息場所である陸環境を一括して保全する必要がある。産卵場所には湧水が必要なので、水脈を遮断しない。成体や幼体の生息場所や水源涵養にとって重要な周辺の森林を保全する。水田や道路沿いの溝や水路をコンクリートで固めない。側溝には落下した個体が這い上がるためのスロープや流されないための堰を設ける等が考えられる。

参 考 文 献

阿部近一・石井愷義・友成孟宏・木内和美.1989. 徳島県における哺乳類、両生類および爬虫類の生息状況・徳島県立博物館開設準備調査報告(4):1-55.
松井正文, 1981. カスミサンショウウオ. 第2回自然環境保全基礎調査 動物分布調査報告書(両生類・は虫類) 全国版(その2). pp.71-77. 日本自然保護協会.
松井正文. 2000. 京都・大阪地域のカスミサンショウウオ. 環境庁(編) 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック - (爬虫類・両生類). pp. 104-105. 自然環境研究センター.
佐藤井岐雄. 1943. 日本産有尾類総説. 日本出版社、大阪. 520 p.
柴田保彦, 1979. カスミサンショウウオ. 第2回自然環境保全基礎調査 動物分布調査報告書(両生類・は虫類) 全国版. pp.46-49. 環境庁.
曾川和郎. 1966. 徳島県産サンショウウオについて. 徳島県高等学校理科学会誌, (7):7-12.
曾川和郎. 1979. 徳島県の両生・は虫類の概要. 第2回自然環境保全基礎調査 動物分布調査報告書(両生類・は虫類) 徳島県. pp. 2-4. 環境庁.
田辺真吾・松井正文. 1997. カスミサンショウウオ(京阪個体群). 日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料(Ⅳ). pp. 287-291. 日本水産資源保護協会.
田中清裕. 1996. カスミサンショウウオ. 千石正一・疋田努・松井正文・仲谷一宏(編) 日本動物大百科, 5 両生類・爬虫類・軟骨魚類. pp. 18,22. 平凡社.

ブチサンショウウオ

Hynobius naevius

サンショウウオ目サンショウウオ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

Ⅱ類

環境カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

県内での分布がきわめて狭い範囲に限られるうえに、特殊な生息環境に依存している。

形 態

剣山産の全長は、雄で 86.2-129.9mm、雌で 92.9-126.1mm、頭胴長は、雄で 52.1-77.4mm、雌で 53.4-73.3mm。県内産の個体の体色は特異で、背面から体側にかけては褐色で、黄白色の地衣状斑紋や斑点が広がる。これは茄子紺色の地に銀白色の斑紋のある中国地方や九州北部産とは大きく異なるものであり、むしろ九州産の別種ベッコウサンショウウオに似ている。また、他地域産では、腹面に地衣状斑紋があるのが普通だが、県内産では、斑紋をもたない個体が多い。肋条は 12-13 本。鋤骨歯列は深い V 字形。卵囊の形状は細長いバナナ状。

近似種との区別

県内産の他のサンショウウオとは、背面から体側にかけて黄白色の地衣状斑紋があることなどで区別される。

分布の概要

本州西南部（岐阜県以西、京都府を除く）、四国、九州に分布する。日本固有種。

県内の生息状況

県内では神山町から山城町間の山地に生息する。これまでに知られている生息地の標高は 400m 以上で、剣山の頂上（1955m）で発見されたこともある。分布記録のある市町村は、那賀郡木沢村、美馬郡一宇村、木屋平村、勝浦郡上勝町、名西郡神山町、三好郡東祖谷山村、山城町。

生態的特性

山地の林床に生息し、産卵期になると源流部に集まってくる。剣山における産卵期は 5 月から 6 月。産卵は渓流の源流部で行われ、卵囊を一對ずつ水中の石の下や隙間に産みつける。剣山産の一腹卵数は 17 - 26 卵。孵化した幼生はあまり大きくならず夏頃に変態して上陸する。剣山産の変態直後幼体の全長は、26.6 - 31.3mm。成体や幼体は、普段は落葉や倒木、石等の下、砂礫中に潜んでいることが多く、オオダイガハラサンショウウオやハコネサンショウウオと同じ場所で混生していることもある。剣山では雨天時の昼間に移動中の幼体が発見されている。完全な動物食で、幼生の間は水中の昆虫などを、成体や幼体は陸上の昆虫、クモ、ワラジムシ、ナメクジなどを捕食すると考えられる。

生存に対する 脅威・保護対策

本種の生息する山地の大部分は、国定公園に含まれているものの、林道やダム、堰堤などの建設や森林の伐採、観光開発などによって、既に生息地のいくらかが破壊されたと考えられる。特に、森林の伐採は生息場所の乾燥化を招いていると考えられる。また、林道や観光施設の建設は、生じた土砂によって産卵場として重要な谷を埋没させることが多いし、生息地を寸断させている。さらに、道路沿いの側溝の存在は移動個体の落下を招いている。これらのことから、産卵や幼生の生息場所としての流水環境と成体や幼体の生息場所である森林を一括して保全する必要がある。産卵には湧水が必要なので、水脈を遮断しない。幼生の生息場所である流水環境を寸断、汚染しない。成体や幼体の生息場所や水源涵養にとって重要な周辺の森林を保全する。川岸や道路沿いの側溝をコンクリートで固めない。側溝には落下した個体が這い上がるためのスロープや流されないための堰を設ける等が考えられる。

参 考 文 献

阿部近一・石井愷義・友成孟宏・木内和美 .1989. 徳島県における哺乳類、両生類および爬虫類の生息状況 . 徳島県立博物館開設準備調査報告 (4): 1-55.
比婆科学教育振興会 (編) . 1996. 広島県の両生・爬虫類 . 中国新聞社 . 167 p.
松井正文・見澤康充 . 1996. ブチサンショウウオ . 千石正一・疋田努・松井正文・仲谷一宏 (編) 日本動物大百科 , 5 両生類・爬虫類・軟骨魚類 . pp. 19-23. 平凡社 .
佐藤井岐雄 . 1943. 日本産有尾類総説 . 日本出版社、大阪 . 520 p.
曾川和郎 . 1966. 徳島県産サンショウウオについて . 徳島県高等学校理科学会誌 , (7): 7-12.
曾川和郎 . 1972. 松尾川上流域のサンショウウオ . 阿波学会・徳島県立図書館 (編) 祖谷・松尾川流域 , 郷土研究発表会紀要 (18): 58 - 65. 徳島県立図書館 .
曾川和郎 . 1979. 徳島県の両生・は虫類の概要 . 第 2 回自然環境保全基礎調査 動物分布調査報告書 (両生類・は虫類) 徳島県 . pp. 2-4. 環境庁 .
田村毅 . 1980. 山の子とサンショウウオ . 学習研究社 . 188 p.

ハコネサンショウウオ

Onychodactylus japonicus

サンショウウオ目サンショウウオ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

Ⅱ類

環境カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

県内での分布がきわめて狭い範囲に限られ、特殊な生息環境に依存している。

形 態

剣山産の全長は雄で 146.2-147.9mm、雌で 139.4-161.0mm。頭胴長は雄で 65.8-69.8mm、雌で 62.7-75.2mm 程度。背面の体色は黒褐色で、頭部から尾部にかけて橙から褐色の帯状斑紋をもつ個体が多い。腹面は淡色。肋条は 12 - 15 本。鋤骨歯列は極めて浅い V 字形。繁殖期になると指端に黒色の爪があらわれる。成体になっても肺がなく、皮膚呼吸のみを行う。幼生の体色は個体によって様々で、帯状斑紋をもつ個体や褐色の小斑点が散在する個体などがいる。幼生の四肢の上部にはひだがあり、尾のひれの前端が後肢上に位置する。卵囊の形状は長いバナナ状。

近似種との区別

県内産の他のサンショウウオとは、背面に橙から褐色の帯状斑紋があること、尾が長いこと、繁殖期に爪を生じることなどで区別される。また、幼生段階では尾のひれの前端が後肢上に位置すること、四肢の上部にひだがあること、良く発達した黒爪をもつことなどで区別される。

分布の概要

本州、四国に分布する。日本固有種。

県内の生息状況

県内では、剣山周辺に生息する。これまでに知られている生息地の標高は概ね 1300m 以上で、剣山の頂上（1955m）で発見されたこともある。分布記録のある市町村は、那賀郡木沢村、美馬郡木屋平村、三好郡東祖谷山村。

生態的特性

山地の林床に生息し、産卵期になると渓流の源流部に集まってくる。県内における産卵期は明らかでないが、他の地域では概ね 10 月から 7 月に含まれる。産卵は源流部の伏流水中などで行われ、卵囊は一對ずつ水中の石の下や隙間に産みつけられる。剣山産の一腹中の卵数は 17 個程度。孵化した幼生は数年間水中生活をおくるが、ブチサンショウウオやオオダイガハラサンショウウオと比べるとより水量や溶存酸素量の多い渓流に生息する傾向がある。幼生は夏から秋に変態して上陸する。剣山産の変態直後幼体の全長は 77.1 - 86.6mm 程度。成体や幼体は、普段は落葉や倒木、石の下、砂礫中等に潜んでいることが多く、ブチサンショウウオやオオダイガハラサンショウウオと同じ場所で混生していることもある。剣山では雨天時の昼間に移動中の成体が発見されている。完全な動物食で、幼生の間は水中の昆虫やミミズなどを、成体や幼体は陸上のクモ、昆虫、ミミズ、ナメクジなどを捕食すると考えられる。

生存に対する 脅威・保護対策

本種の生息する剣山は国定公園に含まれているため、生息環境は一応保全されている。しかし、林道から谷への土砂の流出や、道路による生息地の寸断、道路沿いの側溝への移動個体の落下等が生存を脅かしている。産卵や幼生の生息場所としての渓流と成体や幼体の生息場所である森林を一括して保全する必要がある。幼生の生息場所である流水環境を堰堤などによって寸断しない。成体や幼体の生息場所や水源涵養にとって重要な周辺の森林を保全する。川岸や道路沿いの側溝をコンクリートで固めない。側溝には落下した個体が這い上がるためのスロープや流されないための堰を設ける等が考えられる。

参 考 文 献

阿部近一・石井愷義・友成孟宏・木内和美 .1989. 徳島県における哺乳類、両生類および爬虫類の生息状況 . 徳島県立博物館開設準備調査報告 (4):1-55.
秋田喜憲 .1996. ハコネサンショウウオ . 千石正一・疋田努・松井正文・仲谷一宏 (編) 日本動物大百科, 5 両生類・爬虫類・軟骨魚類 . pp. 20,23. 平凡社 .
秋田喜憲 .1997. ハコネサンショウウオ . 日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料 (Ⅳ) . pp. 316-321. 日本水産資源保護協会 .
比婆科学教育振興会 (編) .1996. 広島県の両生・爬虫類 . 中国新聞社 . 167p.
佐藤井岐雄 .1943. 日本産有尾類総説 . 日本出版社、大阪 . 520 p.
曾川和郎 .1966. 徳島県産サンショウウオについて . 徳島県高等学校理科学会誌 (7):7-12.
曾川和郎 (1979) 徳島県の両生・は虫類の概要 . 第 2 回自然環境保全基礎調査動物分布調査報告書 (両生類・は虫類) 徳島県 . pp. 2-4. 環境庁 .
田村毅 .1980. 山の子とサンショウウオ . 学習研究社 . 188 p.

ニホンアカガエル

Rana japonica

カエル目アカガエル科

徳島県カテゴリ

絶滅危

Ⅱ類

環境カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

県内での分布が非常に狭い範囲に限られ、個々の産地は孤立している。また、生息環境が急激に悪化しているため、個体数が著しく減少している。

形 態

体長は雄で 44mm、雌で 50mm 程度。体は比較的細く、頭部は細長くて吻端はやや尖る。四肢の指端は膨らまない。後肢は長く、みずかきは比較的よく発達する。背側線隆条は鼓膜の後ろで曲がらない。背面は明るい赤褐色だが、周囲の状況によって明るい橙色から黒褐色まで変色する。腹面は黄白色で、黒褐色の斑点をもたない。幼生は胴部背面に 1 対の黒褐色の点状斑紋をもつ。

近似種との区別

他府県では混生することのあるヤマアカガエルより、体、とくに頭部が細く、吻がより尖り、背側線隆条は直線的で、雄が鳴嚢をもたず、鳴き声もまったく違うことで区別される。幼生は胴部背面に 1 対の黒褐色の点状斑紋をもつことで区別される。

分布の概要

本州・四国・九州に分布する。日本固有種。

県内の生息状況

県内における生息記録は極めて少なく、東南部の阿南市と海部郡海南町の丘陵地から知られているに過ぎない。

生態的特性

平地ないし丘陵地性の種で、山地には少ない。1 月から 3 月に水の残った水田、湿原、湿地の水溜まりなど、浅い止水で繁殖する。雄はキョッキョッキョッ・・・と鳴く。卵塊は球形で、卵数は 1000 個程度である。幼生は 5 月から 6 月に変態する。幼生の間は雑食で、藻類や動物の死体などを食べるが、変態後は完全な動物食となり、クモや昆虫などの比較的小さな餌をよく食べる。水底で越冬することが多い。

生存に対する 脅威・保護対策

生息地破壊が最大の脅威で、水田（湿田）や湿地の減少による産卵場所の消失と、農薬散布、水質汚濁などが生存を圧迫している。本種は低地から丘陵にかけての水田や湿地の周辺の林床や草地に生息し、春先に水のある場所で繁殖するため、そうした場所を含む地域の開発を避けることが重要である。

参 考 文 献

阿部近一・石井愷義・友成孟宏・木内和美・1989. 徳島県における哺乳類、両生類および爬虫類の生息状況・徳島県立博物館開設準備調査報告 (4): 1-55.

前田憲男・松井正文・1999. 日本カエル図鑑、改訂版・文一総合出版・221 p.

松井正文・1996. ニホンアカガエル・千石正一・足田努・松井正文・仲谷一宏（編）日本動物大百科・5 両生類・爬虫類・軟骨魚類・p.42. 平凡社.

オオダイガハラサンショウウオ

Hynobius boulengeri

サンショウウオ目サンショウウオ科

徳島県カテゴリ

絶滅危

環 庁カテゴリ

該当なし

選 定 理 由

県内での分布が狭い範囲に限られ、特殊な環境に依存している。現在本種に含まれている地域個体群は互いに遺伝的に大きく異なっており、将来の分類学的研究の結果によって、本県産を含む四国産個体群は、本州産の基準個体群と別種になる可能性が高い。

形 態

雲早山産の雄の全長は 145.1-190.6mm、頭胴長は 78.6-102.9mm 程度。剣山産の雌の全長は 158.1-194.0mm、頭胴長は 88.9-108.6mm 程度。背面は様な石板色で、普通斑紋はないが、個体によっては銀白色の斑点が、体側を中心に散在している場合がある。幼体の間は背面から体側に銀白色の斑点が散在している。肋条は 13 本。鋤骨歯列は V 字形だが、それほど深くない。幼生は黄褐色から灰褐色で、黒褐色の斑紋をもつ。卵嚢は長い紐状で遊離端が顕著である。

近似種との区別

県内産の他のサンショウウオとは、斑紋をもたず体色がー様なこと、大形であること、などで区別される。

分布の概要

紀伊半島、四国、九州に分布する。日本固有種。

県内の生息状況

県内では吉野川より南側の山地一帯に生息する。これまでに知られている生息地の標高は 400m 以上で、剣山の頂上直下で発見されたこともある。分布記録のある市町村は、麻植郡美郷村、山川町、勝浦郡上勝町、那賀郡木沢村、木頭村、美馬郡一宇村、木屋平村、名西郡神山町、名東郡佐那河内村、三好郡西祖谷山村、東祖谷山村。

生態的特性

主に山地の林床に生息し、産卵期になると源流部に集まってくる。剣山における産卵期は 5 月から 6 月。産卵は渓流中で行われ、卵嚢を一對ずつ水中の石の下や隙間に産みつける。一腹卵数は 17-47 個。孵化した幼生は水中生活をおくったのち、生長の早い個体はその年の内に変態して上陸するが、水中で越冬して翌年に変態する個体も多い。剣山産の変態直後幼体の全長は 47.9-58.0mm。成体や幼体は、普段は落葉や倒木、石等の下、砂礫中に潜んでいることが多く、プチサンショウウオやハコネサンショウウオと同じ場所で混生していることもある。剣山では雨天時の昼間に移動中の成体が発見されている。完全な動物食で、幼生の間は水中の昆虫などを、成体や幼体は陸上のミミズ、昆虫、クモ、ワラジムシなどを捕食すると考えられる。

生存に対する 脅威・保護対策

本種の生息する山地の大部分は、国定公園に含まれているものの、林道やダム、堰堤などの建設や森林の伐採、観光開発などによって、既に生息地のいくらかが破壊されたと考えられる。特に、森林の伐採は生息場所の乾燥化を招いていると考えられる。また、林道や観光施設の建設は、生じた土砂によって産卵場として重要な谷を埋没させることが多いし、生息地を寸断させている。さらに、道路沿いの側溝の存在は移動個体の落下を招いている。保護対策としては、産卵や幼生の生息場所としての渓流と成体や幼体の生息場所である森林を一括して保全する必要がある。産卵や幼生の生息場所である流水環境を寸断、汚染しない。成体や幼体の生息場所や水源涵養にとって重要な周辺の森林を保全する。川岸や道路沿いの側溝をコンクリートで固めず、側溝を作る場合には落下した個体が這い上がるためのスロープや流されないための堰を設けること等が必要である。

参 考 文 献

- 阿部近一・石井愷義・友成孟宏・木内和美.1989. 徳島県における哺乳類、両生類および爬虫類の生息状況. 徳島県立博物館開設準備調査報告 (4):1-55.
- 松井正文.1979.. オオダイガハラサンショウウオ. 千石正一(編)原色/両生爬虫類, pp. 112-113. 家の光協会.
- 松井正文.1981. オオダイガハラサンショウウオ. 第2回自然環境保全基礎調査動物分布調査報告書(両生類・は虫類)全国版(その2), pp. 171-178. . 日本自然保護協会.
- 松井正文. 1995. オオダイガハラサンショウウオ. 日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料(II). pp. 410-415. 日本水産資源保護協会.
- 松井正文. 1996. オオダイガハラサンショウウオ. 千石正一・足田努・松井正文・仲谷一宏(編)日本動物大百科, 5 両生類・爬虫類・軟骨魚類. pp. 19-20,23. 平凡社.
- 松井正文. 2000. 本州・九州地域のオオダイガハラサンショウウオ. 環境庁(編)改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック-(爬虫類・両生類). pp. 110-111. 自然環境研究センター.
- 佐藤井岐雄.1943. 日本産有尾類総説. 日本出版社、大阪. 520 p.
- 曾川和郎.1966. 徳島県産サンショウウオについて. 徳島県高等学校理科学会誌, (7):7-12.
- 曾川和郎.1972. 松尾川上流域のサンショウウオ. 阿波学会・徳島県立図書館(編)祖谷・松尾川流域, 郷土研究発表会紀要 (18):58 - 65. 徳島県立図書館.
- 曾川和郎.1979. 徳島県の両生・は虫類の概要. 第2回自然環境保全基礎調査動物分布調査報告書(両生類・は虫類) 徳島県, pp. 2-4. 環境庁.
- 田村毅. 1980. 山の子とサンショウウオ. 学習研究社. 188 p.